

令和8年度以降の休日の学校部活動の在り方について

資料3-1

1 中体連の動向

教員負担軽減

令和6年6月8日(土)
日本中学校体育連盟
令和9年度から全国中学校体育大会
・9競技廃止 ・他競技も規模縮小

2027年度以降の 全国中学校体育大会実施競技

継 続

◆陸上 ◆バスケットボール
◆サッカー ◆バレーボール
◆軟式野球 ◆ソフトテニス
◆卓球 ◆バドミントン ◆柔道
◆剣道 ◆ソフトボール(女子)

除 外

◆水泳 ◆ハンドボール
◆体操 ◆新体操
◆ソフトボール(男子)
◆相撲 ◆スケート
◆アイスホッケー
◆スキー(30年度以降)

2 本市の学校部活動(運動部)加入率

	①令和4年度	②令和5年度	③令和6年度	比(③-①)
生徒数	5,190人	5,157人	4,998人	▲192人
加入数	3,366人	3,251人	3,054人	▲312人
加入率	64.9%	63.0%	61.1%	▲3.8%

【学校部活動の現状】

- ①少子化の影響、任意加入制導入
⇒加入数及び加入率減少
- ②要望の多様化
⇒学校外活動参加率増加
- ③中途退部者
⇒時間制約、体力課題、人間関係

令和8年度以降の休日の学校部活動の在り方について

資料3-2

1 部活動地域移行の目的

地域の子どもは地域で育てる

多様な主体による活動場所の提供

2 地域スポーツ・文化活動の効果

地域活性化、地域振興

子どもの居場所確保

異世代間交流

人間関係の親密化

3 モデル事業による検証

年度	種目
令和6年度 (8種目) ※4種目は開催中止	陸上競技、ハンドボール 剣道、合唱、卓球 バドミントン、ソフトボール ソフトテニス
令和7年度 (13種目)	野球、バレーボール 吹奏楽、サッカー バスケットボール ※令和6年度の8種目は継続して実施

4 新たな地域スポーツ・文化活動の創設に向けて

必要条件

運営主体

指導者

会場

移行可否

(例)ソフトテニス

運営主体	ソフトテニス連盟
指導者	連盟、企業
会場	公共施設、企業、学校

運営主体の募集・委託

5 令和8年10月

①休日の学校部活動の廃止

②新たな地域スポーツ・文化活動の開始
(移行可能種目)

今年度周知活動

10月・11月:小中教職員(今後のスケジュール・モデル事業募集概要)、校長会報告、小学校6年保護者(文書・説明会)
1月:新入生説明会 2月:R7モデル事業募集